

○ 地域の概況

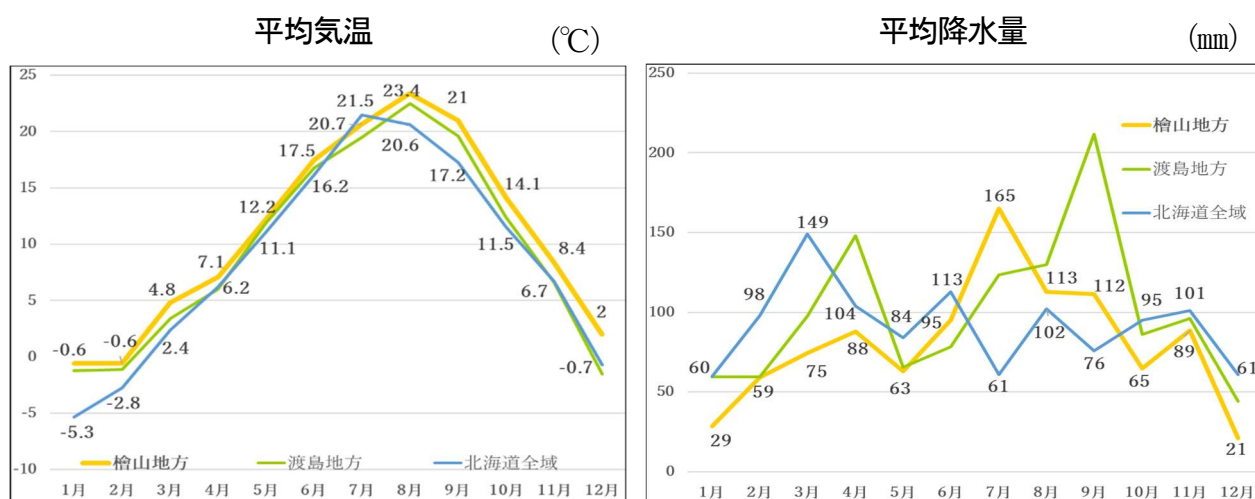
1 地勢・地理

道南地域は、北海道南西部の渡島半島に位置し、東側の「渡島総合振興局管内」（以下「渡島地方」という。）と、西側の「檜山振興局管内」（以下「檜山地方」という。）から構成されている。

【檜山地方】

○檜山地方は、渡島地方に属する八雲町熊石地区を挟む形で飛び地状になっており、南部4町と北部2町、せたな町沖に位置する離島の奥尻町の全7町から構成されている。

○気候について、夏季は台風などの影響で雨が多く、冬季は温暖な気候で積雪が少ない。また、冬季には「東風(たばかぜ)」と呼ばれる日本海沿岸特有の北西からの強い季節風が吹き、特に雪を伴う場合など公共交通の運行に影響を及ぼすことも多い。



【出典】国土交通省気象庁(令和2年)

○基幹産業は農林水産業であり、肥沃な農耕地を活かした「水稲」、「馬鈴しょ」を中心にバラエティーに富んだ作物が栽培されている農業や、「道南スギ」、「トドマツ」などを主体とした林業、「スルメイカ」、「スケトウダラ」、「ウニ」などの水産業が営まれている。

○道内でも極めて古い歴史資産や文化資産を有しており、自然に恵まれ、多種多様な農産物・海産物に恵まれるなど、下表のとおり、様々な観光資源が広く分布している。

各町の観光資源等

町名	主要な観光資源
江差町	江差追分、かもめ島、ニシン、いにしえ街道
上ノ国町	勝山館跡、夷王山、フルーツパーク、上ノ国ワイナリー
厚沢部町	館城跡、太鼓山、メイクイン、鶺鴒ダムオートキャンプ場
乙部町	箱館戦争官軍上陸跡、瀧瀬海岸(シラフラ)、檜山海参(ヒヤマハイシェン)
奥尻町	奥尻島津波館、なべつる岩、ウニ・アワビ、奥尻ワイナリー
今金町	ピリカ旧石器文化館、後志利別川、今金男しゃく、美利河ダム
せたな町	太田神社、奇岩「親子熊岩」、チーズ、洋上風車「風海鳥」

○主要道路・航路・航空路は下表のとおり。



道路・航路・航空路の概要

路線名	区間	接続等	備考
国道 230 号線	せたな町～今金町～ 長万部町	J R 長万部駅 (新幹線長万部駅)	檜山北部を東西に結ぶ 幹線
国道 229 号線	せたな町～八雲町熊石～ 乙部町～江差町	江差港	檜山の南北を結ぶ幹線
国道 277 号線	八雲町～同町熊石	J R 八雲駅 (新幹線新八雲駅)	・八雲町内を東西に結ぶ 幹線 ・熊石地区で国道 229 号 線と接続
国道 227 号線	江差町～北斗市～函館市	・ J R 函館駅 ・ 新幹線新函館北斗駅 ・ 江差港	檜山南部と函館市を結ぶ 幹線(渡島中山峠経由)
国道 228 号線 道道 5 号線	江差町～上ノ国町～ 木古内町	・ 新幹線木古内駅 ・ いさりび鉄道木古内駅 ・ 江差港	
奥尻江差航路	江差港 (江差町) ～ 奥尻港 (奥尻町)	・ 奥尻空港 ・ 新幹線木古内駅 ・ いさりび鉄道木古内駅	離島航路・生活路線
奥尻～ 函館航空路	奥尻空港 (奥尻町) ～ 函館空港 (函館市)	・ JR 函館駅 ・ 新幹線新函館北斗駅	
奥尻～ 丘珠航空路	奥尻空港 (奥尻町) ～ 丘珠空港 (札幌市)	・ JR 札幌駅 (新幹線札幌駅) ・ 奥尻港	

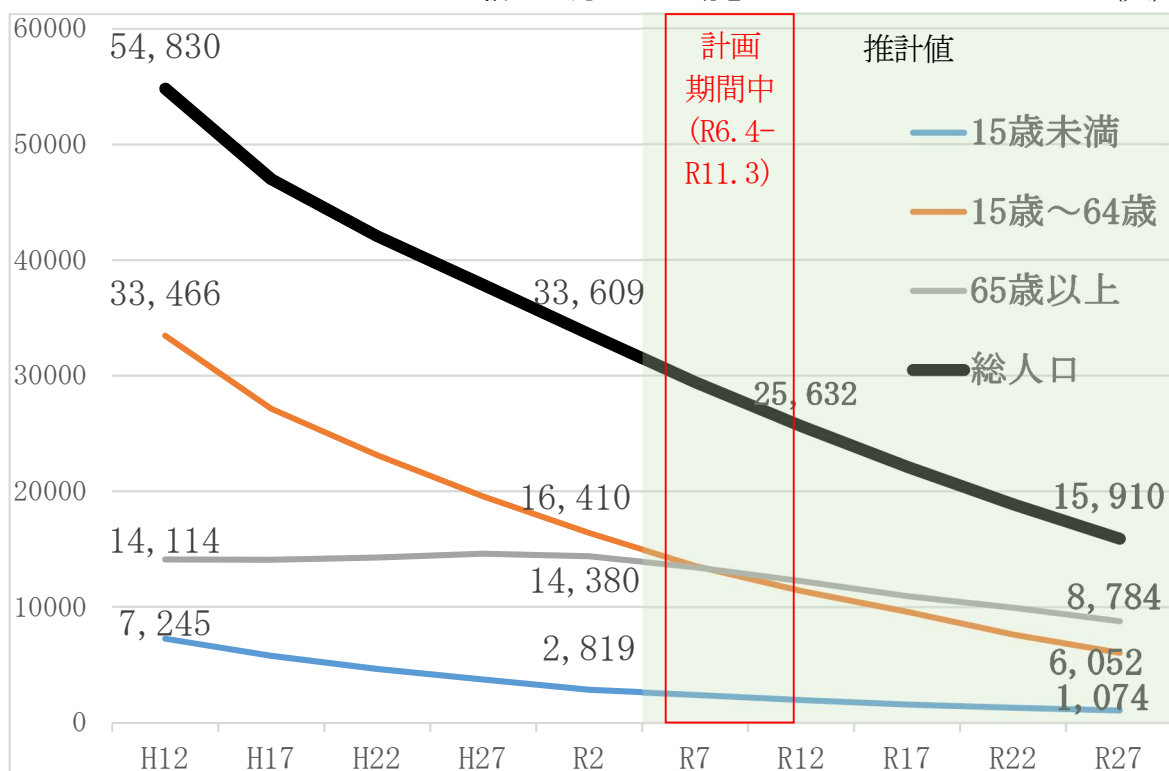
2 社会動向

(1) 人口動態

○檜山地方の人口は、平成12年の約54千人から令和2年の約33千人へと、20年間で30.9%減少しており、さらに令和22年の推計は約19千人と、今後20年度でさらに43.9%減少する見込みとなっている。

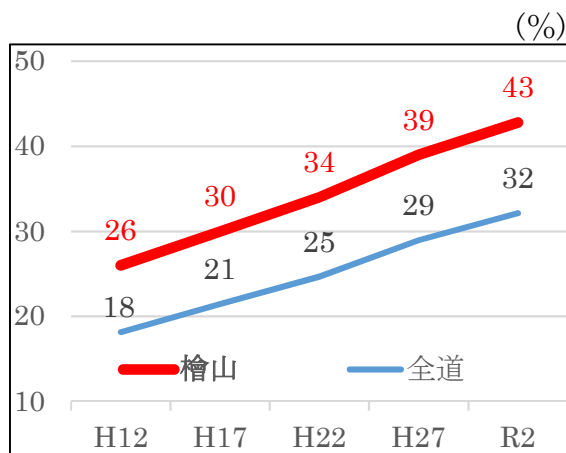
○現在、檜山地方は、道内で「最も高齢化率が高い地方」となっているが、人口減少を年代別に見ると、「65歳以上」の人口より、「64歳未満」の人口の減少スピードが速いことから、今後、さらに高齢化が進行すると考えられる。

檜山地方の人口動態 (人)



【出典】総務省「国勢調査」(令和2年) など

総人口に対する高齢化率 (65歳以上)



	H12	H17	H22	H27	R2
渡島	21%	24%	28%	32%	36%
檜山	26%	30%	34%	39%	43%
北海道平均	18%	21%	25%	29%	32%
全国平均	17%	20%	23%	27%	28%

【出典】総務省「国勢調査」(令和2年)

(2) 移動特性

ア 通勤・通学・買い物等

【檜山南部】

○江差町に国・道の出先機関のほか、道立江差高校、道立江差高等看護学院が所在するため、町内に加え、近隣町から江差町に通勤・通学をする地域住民が多い。

○江差町にスーパー、ホームセンター、ドラッグストア等などが立地するため、町内に加え、近隣町から江差町に買い物等に出かける地域住民が多い。

○JR・新幹線・航空機・津軽海峡フェリーとの交通結節点となっており、また大型商業施設等も多い函館市・北斗市との往来も多い。

【檜山北部】

○せたな町に道立檜山北高校、今金町に道立今金高等養護学校が所在し、両町間を通学する学生が多い。

○商業施設が多く所在する八雲町や、JRとの交通結節点である長万部町との往来も多い。

【檜山全体】

○管内各町の通勤・通学者数は、檜山北部より檜山南部の方が他市町村に通勤・通学者の割合が高い。

○檜山地方の普通高校の60.2%が路線バスで通学している。

なお、生徒数が減少傾向にあり、バス通学者も減少傾向にある。

檜山南部主要施設



檜山北部町主要施設



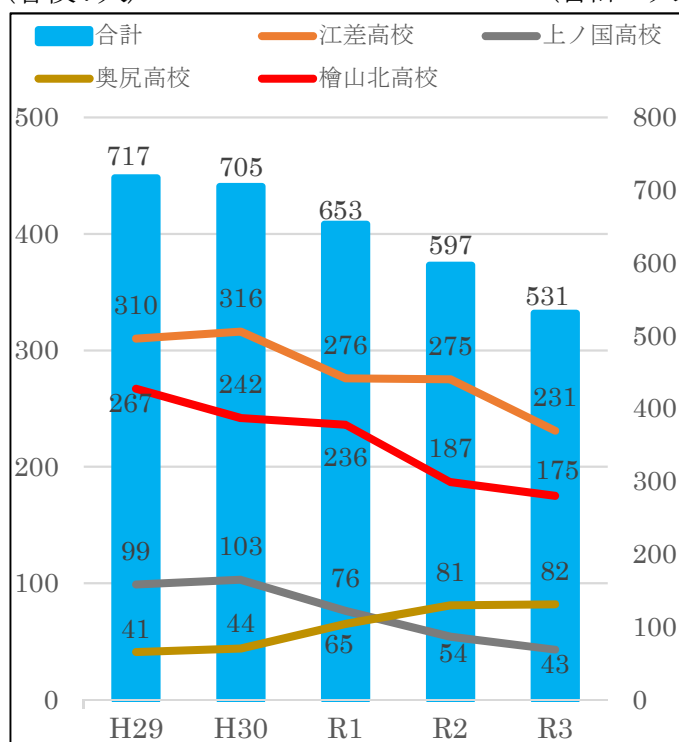
檜山地方の通勤・通学者数

町名	人口 (R2年)	生産年齢 人口 (R2年)	通勤・通学者数			通勤・ 通学して いない	
			自町	他市町村	その他		
檜山南部	江差町	7,428人	3,950人	2,488人 (63.0%)	572人 (14.5%)	221人 (5.6%)	669人 (16.9%)
	上ノ国町	4,306人	2,047人	1,070人 (52.3%)	577人 (28.2%)	17人 (0.8%)	383人 (18.7%)
	厚沢部町	3,592人	1,713人	1,083人 (63.2%)	379人 (22.1%)	2人 (0.1%)	249人 (14.5%)
	乙部町	3,403人	1,567人	790人 (50.4%)	547人 (34.9%)	10人 (0.6%)	220人 (14.0%)
	奥尻町	2,410人	1,250人	1,058人 (84.6%)	6人 (0.5%)	1人 (0.1%)	185人 (14.8%)
檜山北部	今金町	5,072人	2,515人	1,791人 (71.2%)	278人 (11.1%)	107人 (4.3%)	339人 (13.5%)
	せたな町	7,398人	3,323人	2,522人 (75.9%)	294人 (8.8%)	20人 (0.6%)	487人 (14.7%)
総計	33,609人	16,365人	10,802人 (66.0%)	2,653人 (16.2%)	378人 (2.3%)	2,532人 (15.5%)	

【出典】総務省「国勢調査」(令和2年)

檜山地方の普通高校の生徒数推移

(各校:人) (合計:人)



【出典】文化庁・北海道「学校統計」

檜山地方の普通高校の生徒数

に占めるバス通学者の割合

	H29	H30	R1	R2	R3
江差高校	44.5%	45.8%	43.1%	34.9%	38.9%
上ノ国高校	14.4%	38.8%	13.1%	14.8%	11.6%
奥尻高校	100%	100%	100%	100%	100%
檜山北高校	79.7%	82.2%	83.0%	81.2%	81.7%
合計	56.4%	60.7%	59.7%	56.4%	60.2%

【出典】北海道教育庁檜山教育局

イ 医療機関の受療

【檜山南部】

○各町に病院が所在しているが、江差町に診療科の多い道立江差病院が所在するため、周辺町から江差町への通院も見られる。

○また、大きな総合病院が所在し、医療機関数の多い函館市などに通院する地域住民も多く、一部、札幌市に通院する地域住民も見られる。

【檜山北部】

○各町に病院が所在しているが、総合病院のある八雲町への通院も見られる。

○また、大きな総合病院が所在し、医療機関数の多い函館市などに通院する地域住民も多く、一部、札幌市に通院する地域住民も見られる。

外来患者の受療動向

区域 (二次医療圏)	町名	町内 受療自給率	流出先区域(二次医療圏)の構成比		
檜山南部 (南檜山医療圏)	江差町	80.4%	南渡島 23.4%	札幌 0.9%	その他 0.3%
	上ノ国町	45.4%			
	厚沢部町	31.4%			
	乙部町	44.9%			
	奥尻町	82.9%			
	計	75.4%			
檜山北部 (北渡島檜山医療圏)	今金町	70.1%	南渡島 16.4%	札幌 2.8%	その他 4.7%
	せたな町	68.4%			
	八雲町	75.6%			
	長万部町	50.1%			
	計	76.1%			

※「流出先区域(二次医療圏)の構成比」欄の「その他」は「南渡島」・「札幌」以外をいう。

【出典】北海道「北海道医療計画 南檜山地域・北渡島檜山地域推進方針」(平成30年)

用語解説

医療圏：地域の医療需要に対応して、医療資源の適切な配置と医療提供体制の体系化を図るための地域的な単位のこと。道内では「北海道医療計画」で定めており、一次医療圏は初期医療の提供の地域的な単位、二次医療圏は医療計画により病床の整備を図る地域的な単位、三次医療圏は特殊な医療を提供する病床の整備を図る地域的な単位のこと。

ウ アンケート結果

北海道檜山振興局と各町地域公共交通活性化協議会が公共交通に関するアンケート調査を実施した結果、下記の移動実態が判明した。

<調査概要>

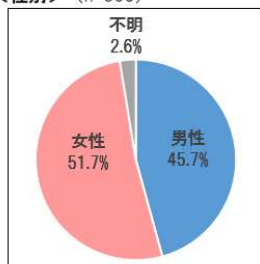
町名	実施主体	実施時期	調査対象	調査世帯数	調査票配布枚数	回答数	回答率(%)
江差町	町地域公共交通活性化協議会	R4. 2	無作為抽出世帯 (15歳以上の町民)	1,700	3,400	855	25.1
上ノ国町	北海道檜山振興局	R4. 5 ～6	無作為抽出世帯 (15歳以上の町民)	800	1,600	252	15.8
厚沢部町	北海道檜山振興局	R4. 5 ～6	全世帯 (15歳以上の町民)	1,616	1,616	320	19.8
乙部町	町地域公共交通協議会	R3. 9	無作為抽出世帯 (15歳以上の町民)	1,742	3,484	1,118	32.1
今金町	町地域公共交通活性化協議会	R3. 9	無作為抽出世帯 (15歳以上の町民)	1,370	2,740	926	33.8
せたな町	北海道檜山振興局	R4. 5 ～6	全世帯 (15歳以上の町民)	3,560	3,560	353	9.9
管内6町計				10,788	16,400	3,824	23.3

※奥尻町は、広域路線がないため未実施。

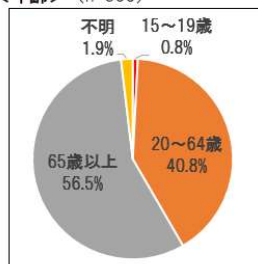
a 回答者属性

・江差町

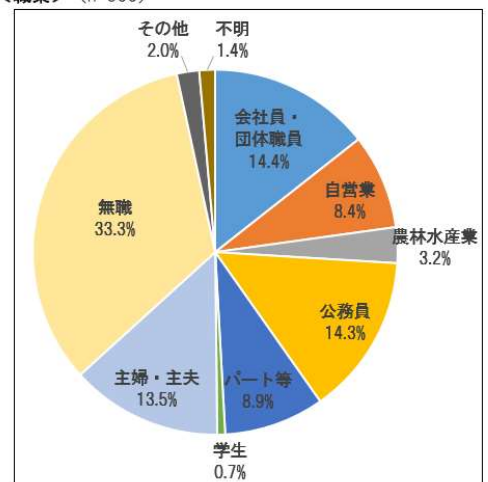
<性別> (n=855)



<年齢> (n=855)



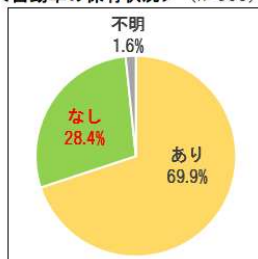
<職業> (n=855)



<運転免許の保有状況> (n=855)

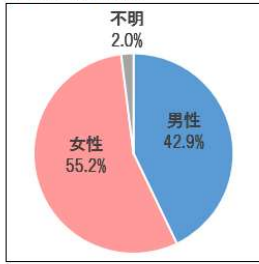


<自動車の保有状況> (n=855)

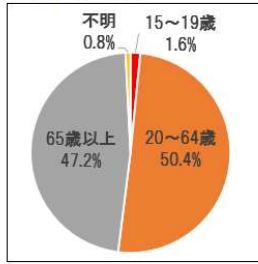


・上ノ国町

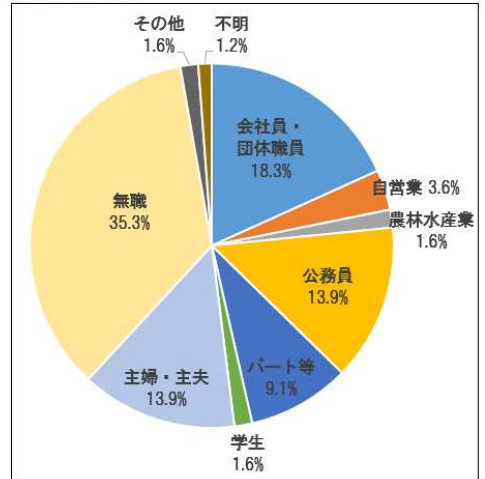
<性別> (n=252)



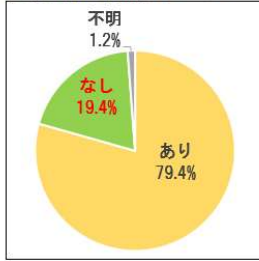
<年齢> (n=252)



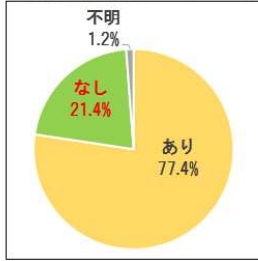
<職業> (n=252)



<運転免許の保有状況> (n=252)

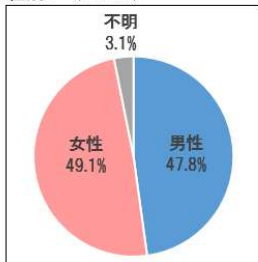


<自動車の保有状況> (n=252)

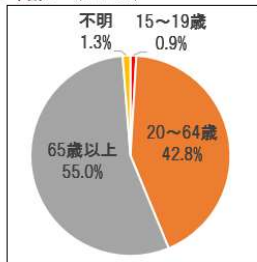


・厚沢部町

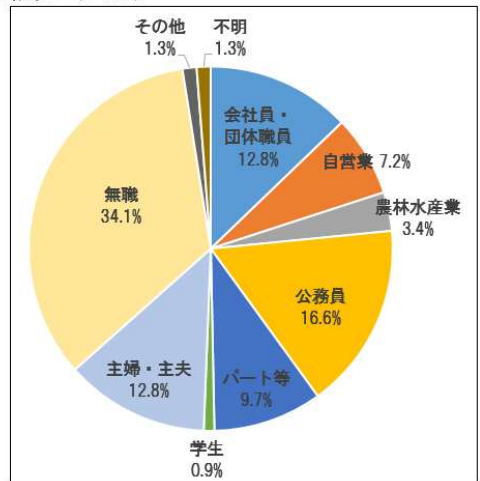
<性別> (n=252)



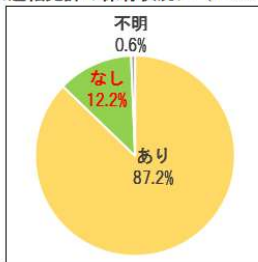
<年齢> (n=252)



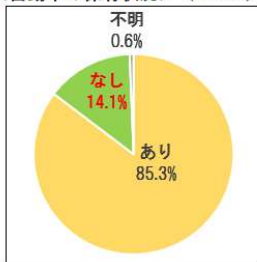
<職業> (n=252)



<運転免許の保有状況> (n=252)

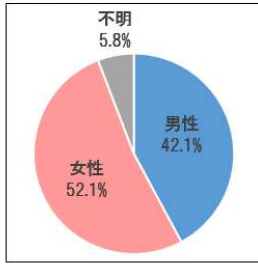


<自動車の保有状況> (n=252)

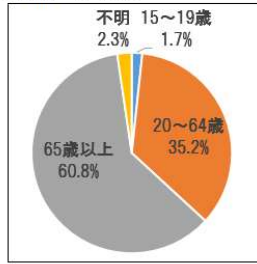


・乙部町

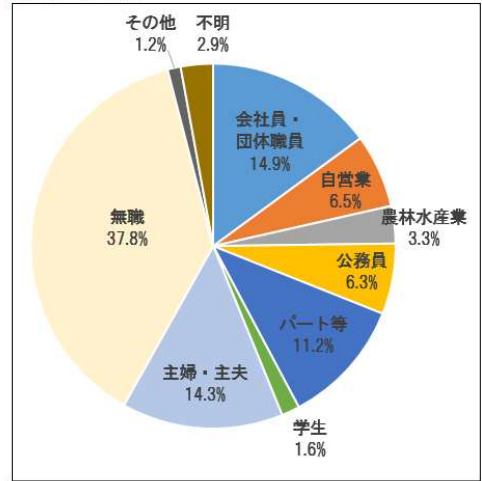
<性別> (n=252)



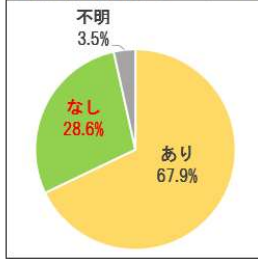
<年齢> (n=252)



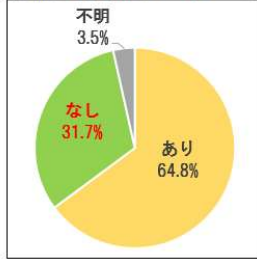
<職業> (n=252)



<運転免許の保有状況> (n=252)

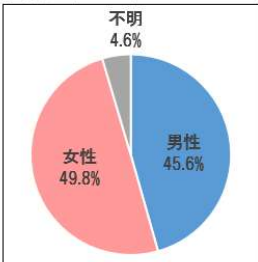


<自動車の保有状況> (n=252)

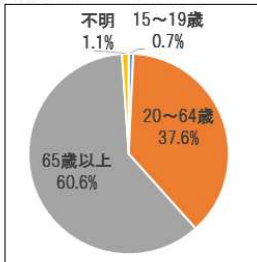


・今金町

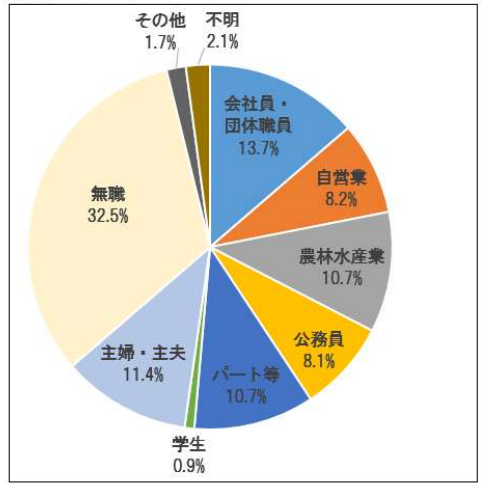
<性別> (n=936)



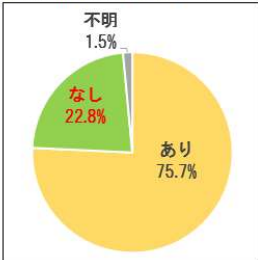
<年齢> (n=936)



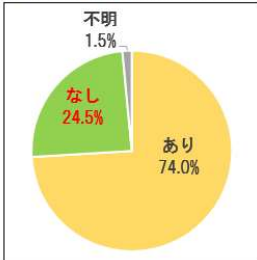
<職業> (n=936)



<運転免許の保有状況> (n=936)

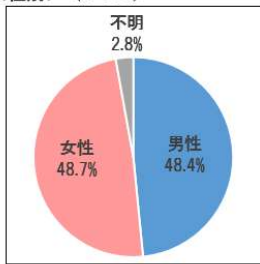


<自動車の保有状況> (n=936)

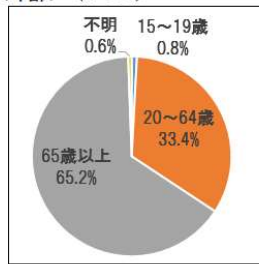


・せたな町

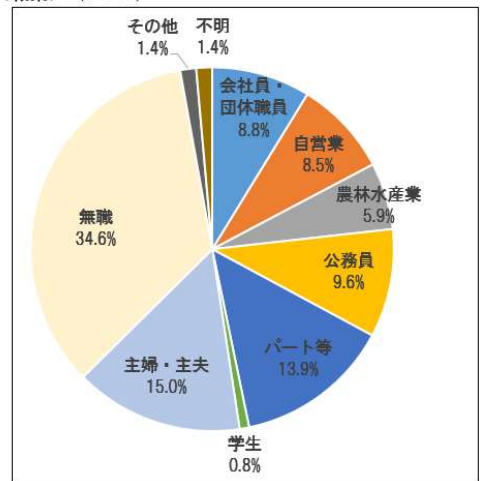
<性別> (n=936)



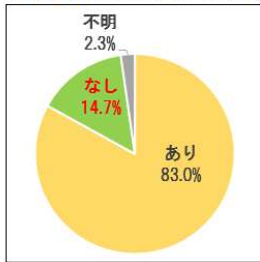
<年齢> (n=936)



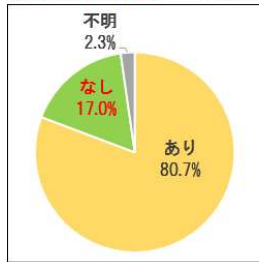
<職業> (n=936)



<運転免許の保有状況> (n=936)



<自動車の保有状況> (n=936)



b 通勤・通学

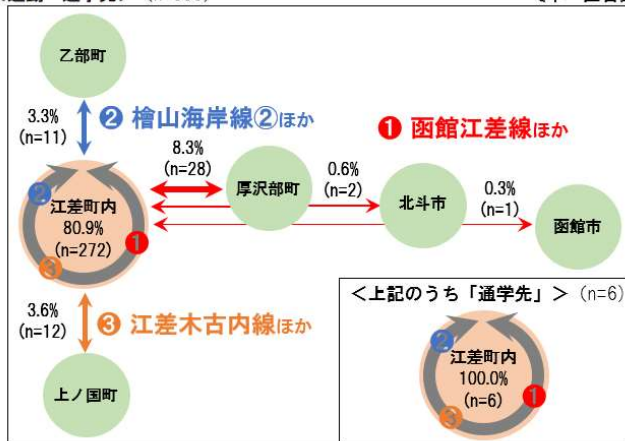
【檜山南部】

○江差町内に加え、近隣町から江差町に通勤・通学している地域住民が多い。

○移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

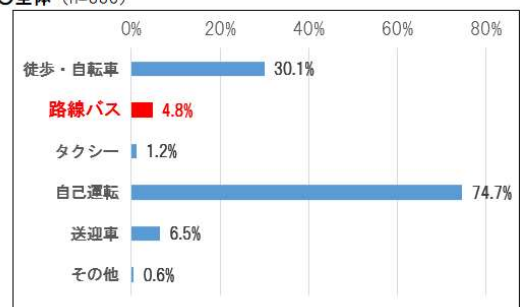
・江差町

<通勤・通学先> (n=336) [単一回答]

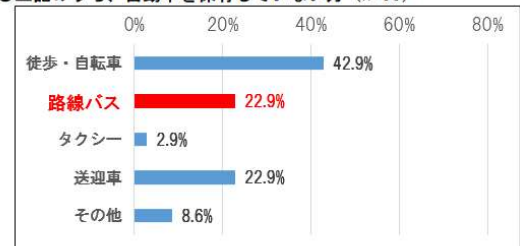


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=336)



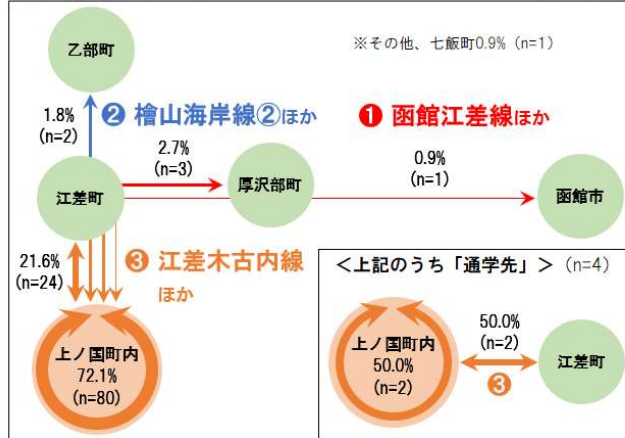
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=35)



※うち、学生 (n=6) では、路線バスが33.3%。

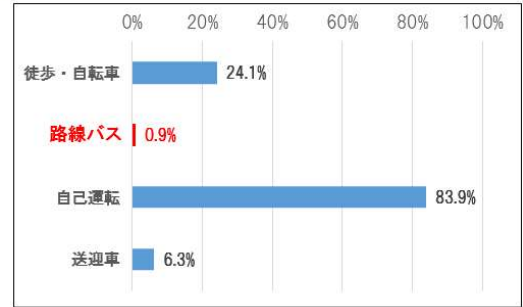
・上ノ国町

<通勤・通学先> (n=111) [単一回答]

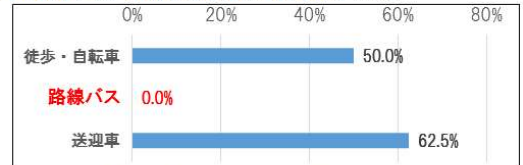


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=112)



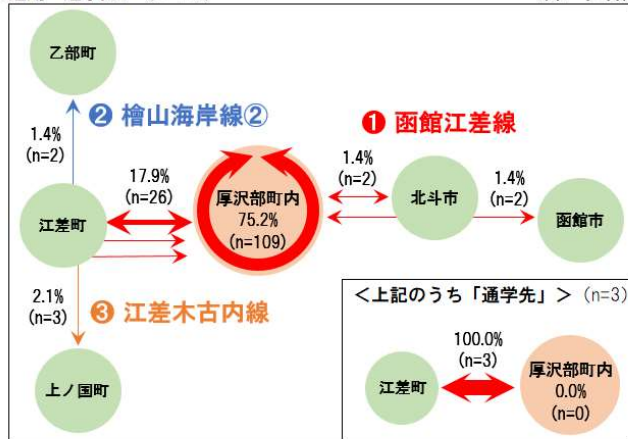
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=8)



※うち、学生 (n=4) でも、路線バスはなし。

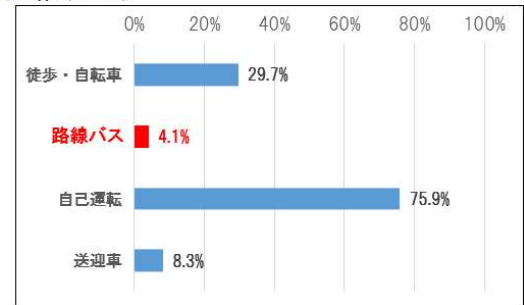
・厚沢部町

<通勤・通学先> (n=145) [単一回答]

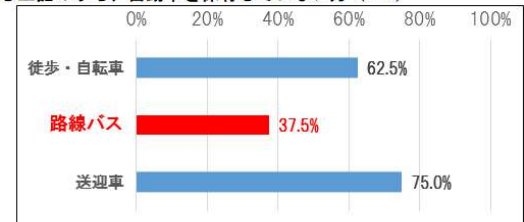


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=145)



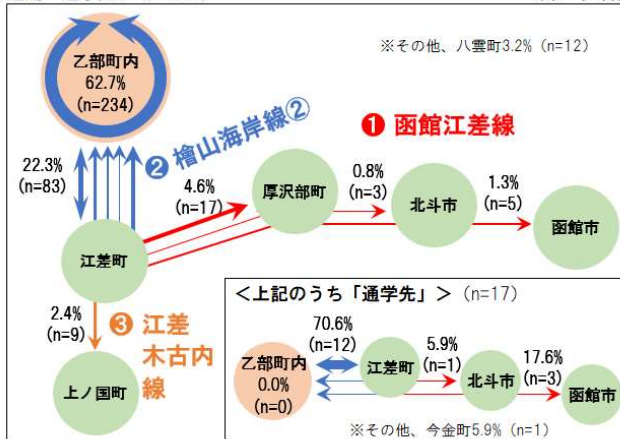
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=8)



※うち、学生 (n=3) では、路線バスが100.0%。

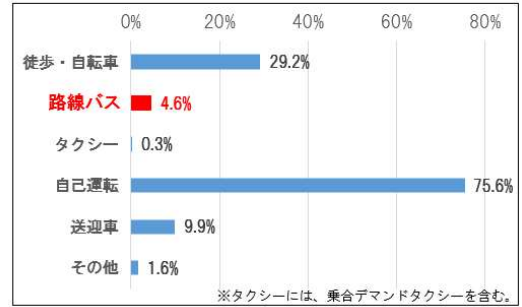
・乙部町

<通勤・通学先> (n=373) [単一回答]

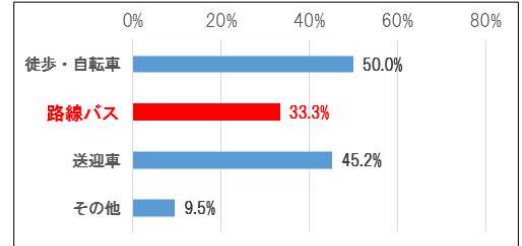


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=373)



○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=42)



※うち、学生 (n=17) では、路線バスが70.6%。

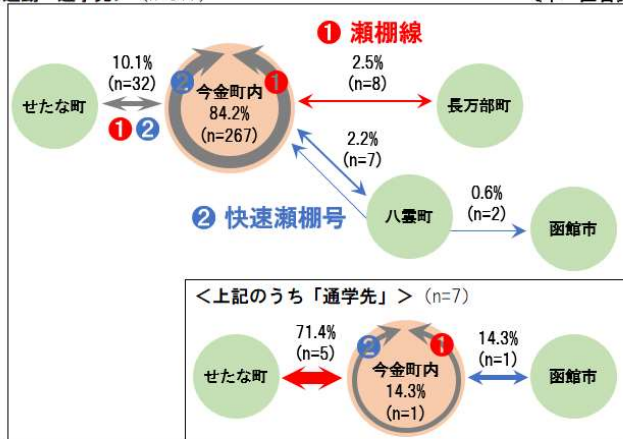
【檜山北部】

○今金町・せたな町の各町内に加え、両町間で通勤・通学している地域住民が多い。

○移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

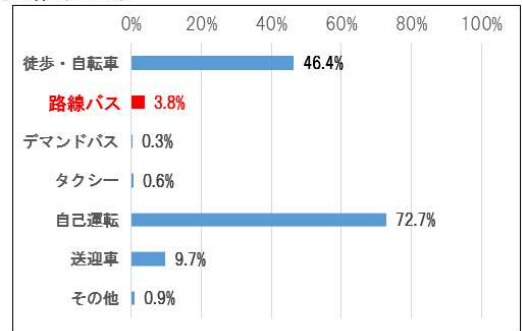
・今金町

<通勤・通学先> (n=317) [単一回答]

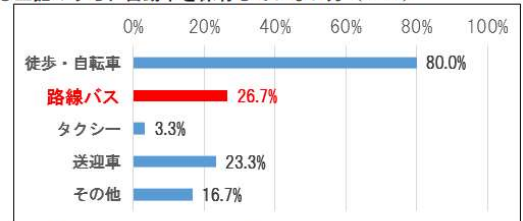


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=319)



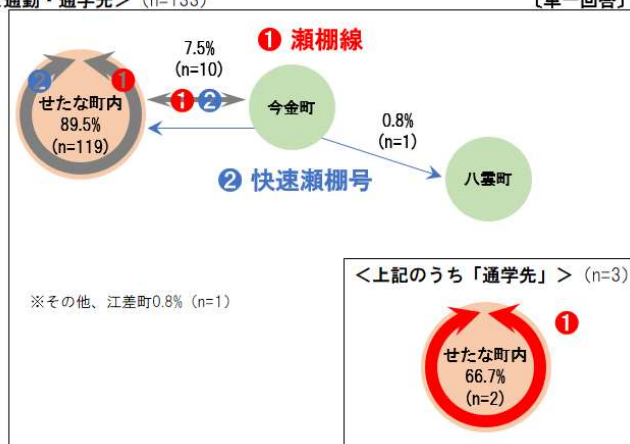
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=30)



※うち、学生 (n=7) では、路線バスが71.4%。

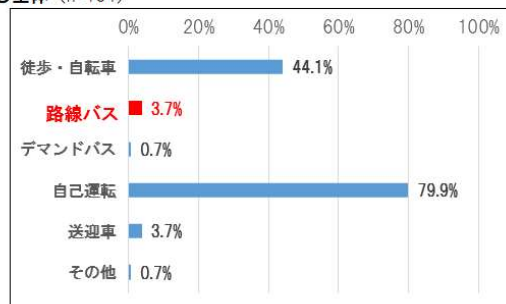
・せたな町

<通勤・通学先> (n=133) [単一回答]

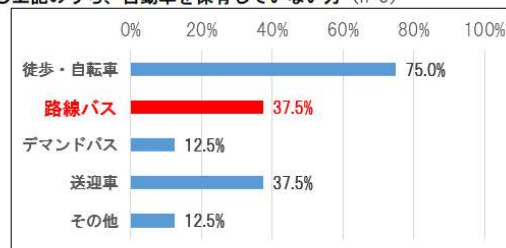


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=134)



○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=8)



※うち、学生 (n=3) では、路線バスが100.0%。

【檜山全体】

○檜山北部より檜山南部の方が他市町村に通勤・通学している割合が高い。

○移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

c 買い物

【檜山南部】

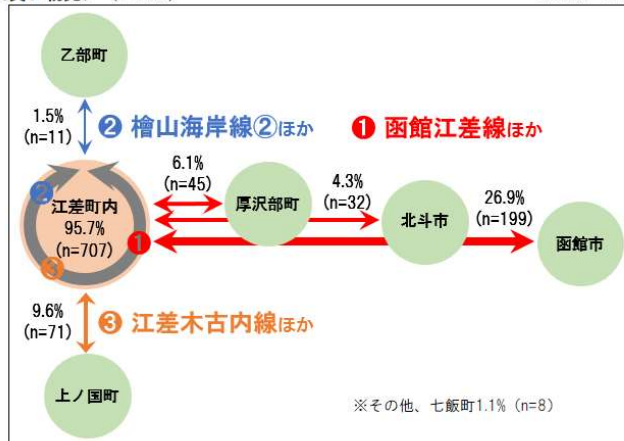
○江差町内に加え、近隣町から江差町に買い物に出かける地域住民が多く、また、函館市・北斗市との往来も多い。

○移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

・江差町

<買い物先> (n=739)

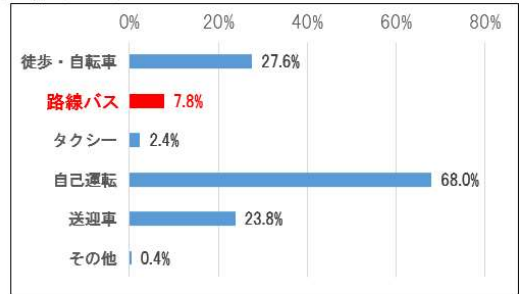
[複数回答]



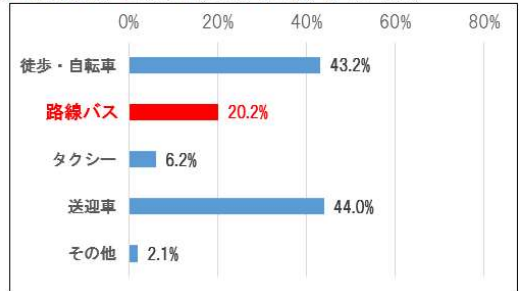
<移動手段>

[複数回答]

○全体 (n=739)



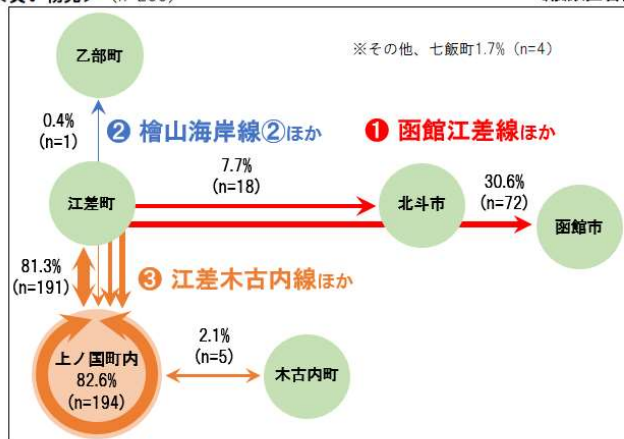
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=281)



・上ノ国町

<買い物先> (n=235)

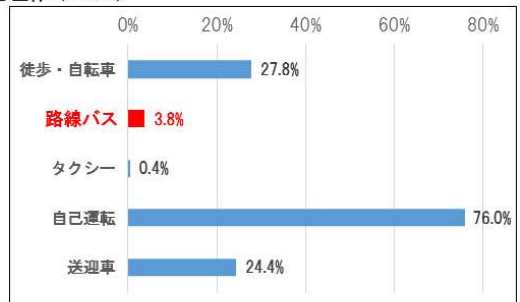
[複数回答]



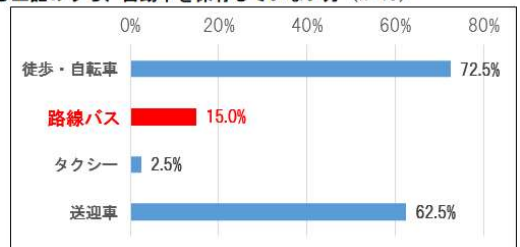
<移動手段>

[複数回答]

○全体 (n=234)



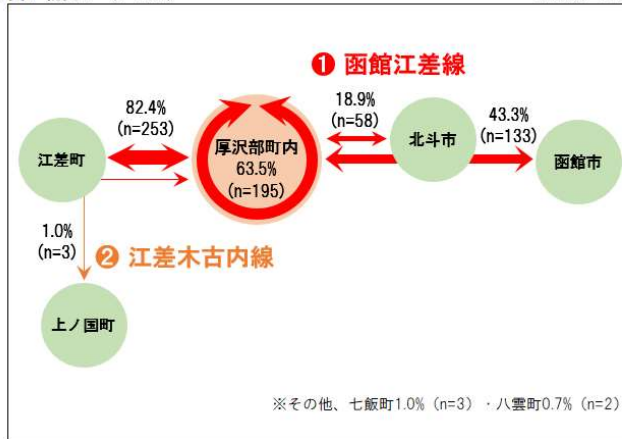
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=40)



・厚沢部町

<買い物先> (n=307)

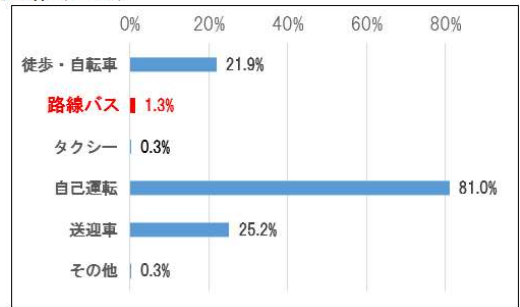
[複数回答]



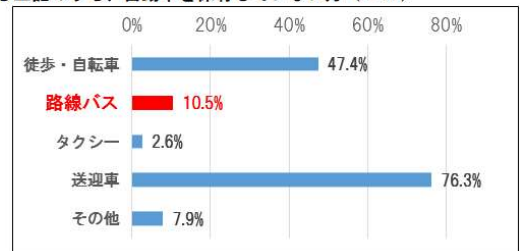
<移動手段>

[複数回答]

○全体 (n=305)



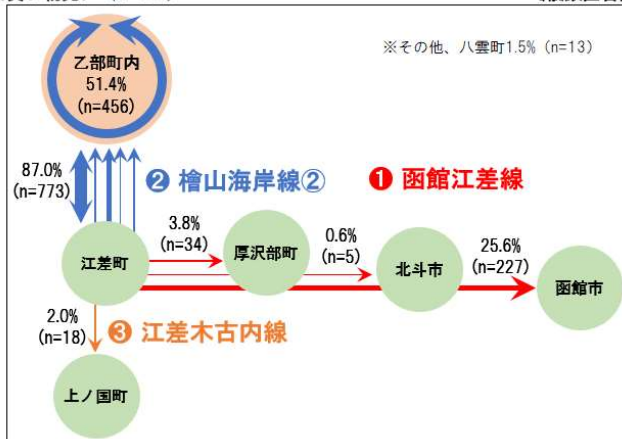
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=38)



・乙部町

<買い物先> (n=888)

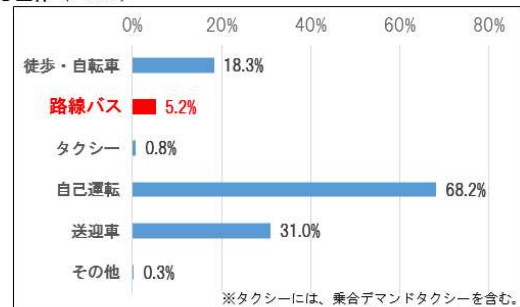
[複数回答]



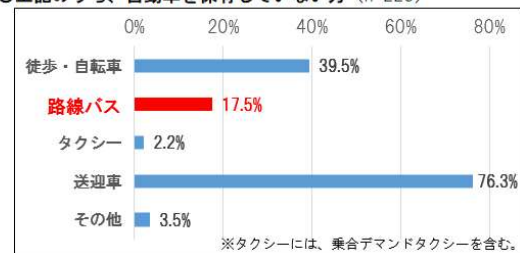
<移動手段>

[複数回答]

○全体 (n=897)



○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=228)



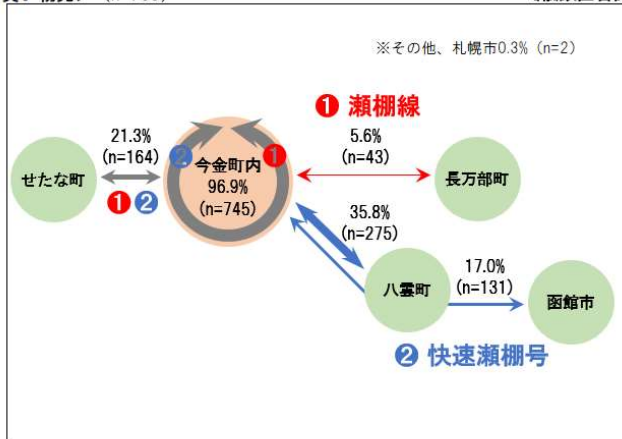
【檜山北部】

○商業施設が多く所在する八雲町や、長万部町との往来も見られる。

○移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

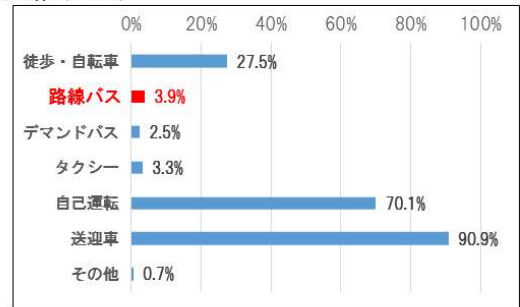
・今金町

<買い物先> (n=769) [複数回答]

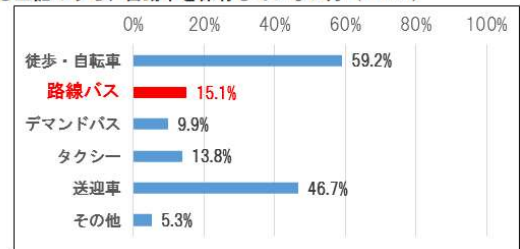


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=768)

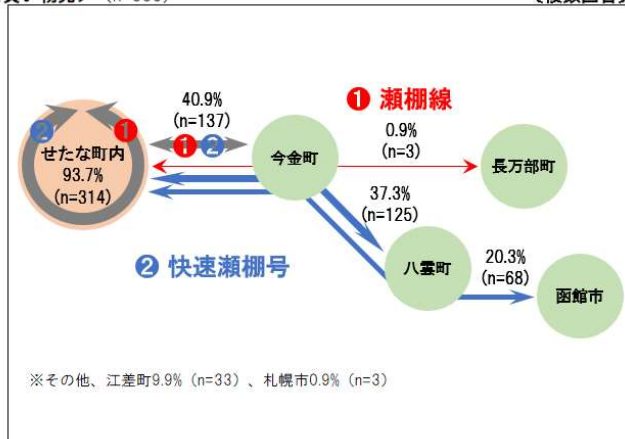


○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=152)



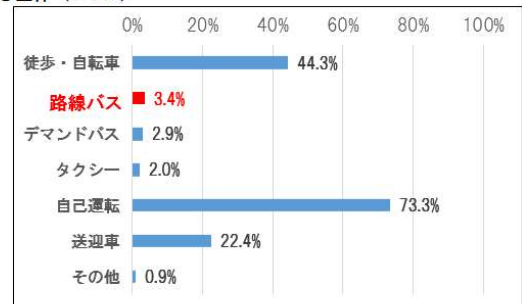
・せたな町

<買い物先> (n=335) [複数回答]

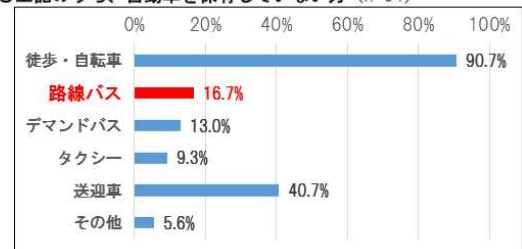


<移動手段> [複数回答]

○全体 (n=348)



○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=54)



【檜山全体】

○檜山北部より檜山南部の方が他市町村に買い物で移動している割合が高い。

○移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

d 通院

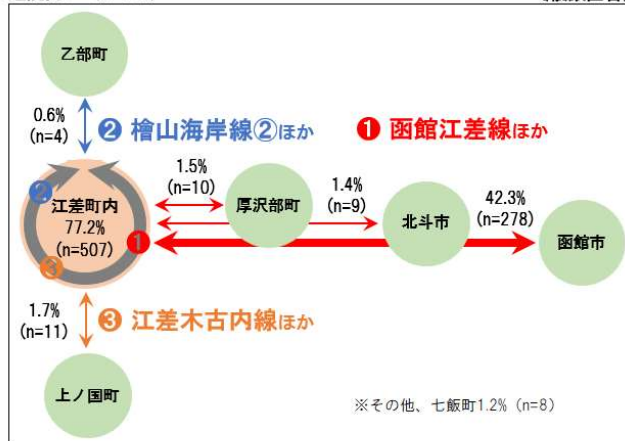
【檜山南部】

- 各町に病院が所在しているが、江差町に診療科の多い道立江差病院が所在するため、周辺町から江差町への通院も見られる。
- また、大きな総合病院が所在し、医療機関数の多い函館市などに通院する地域住民も多い。
- 移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

・江差町

<通院先> (n=657)

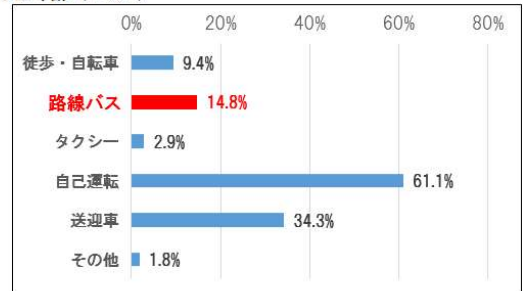
【複数回答】



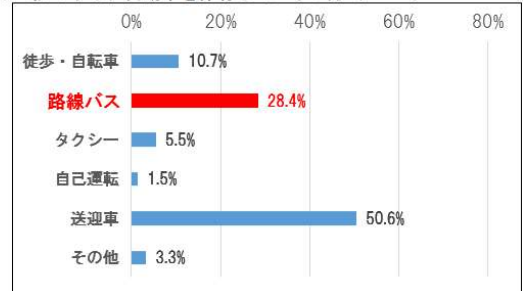
<移動手段>

【複数回答】

○全年齢 (n=657)



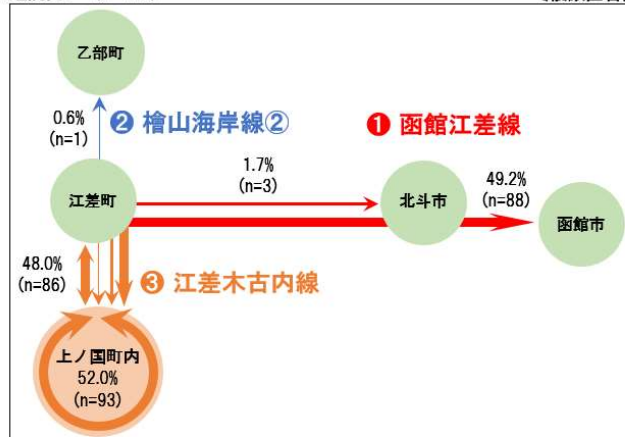
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=271)



・上ノ国町

<通院先> (n=179)

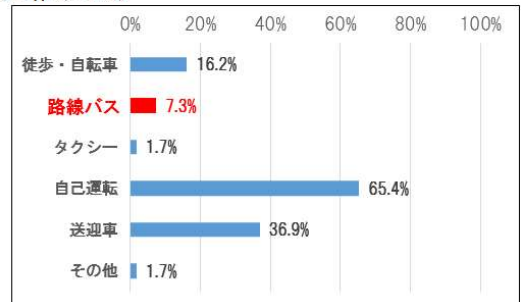
【複数回答】



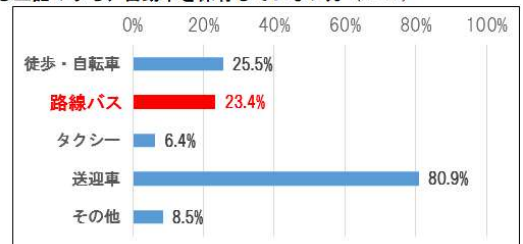
<移動手段>

【複数回答】

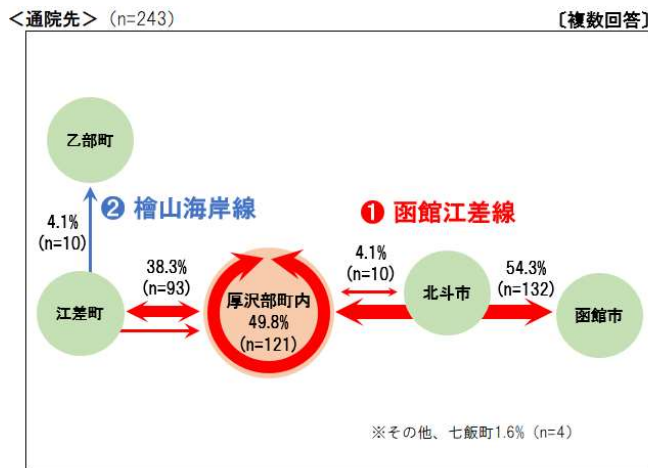
○全体 (n=179)



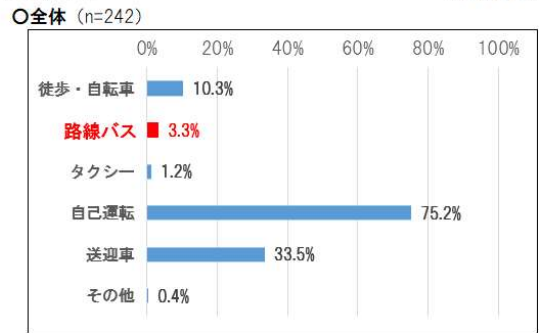
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=47)



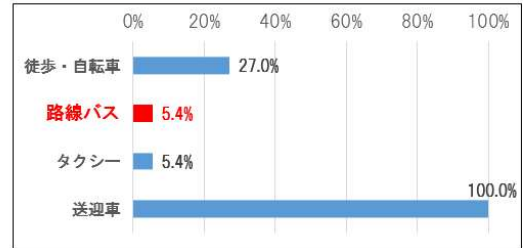
・厚沢部町



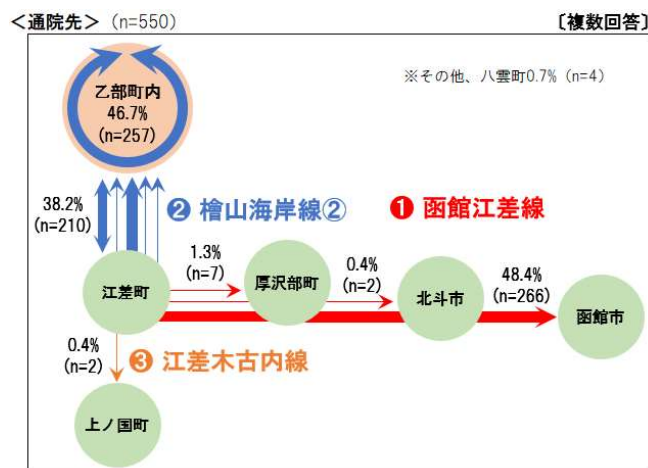
<移動手段> 【複数回答】



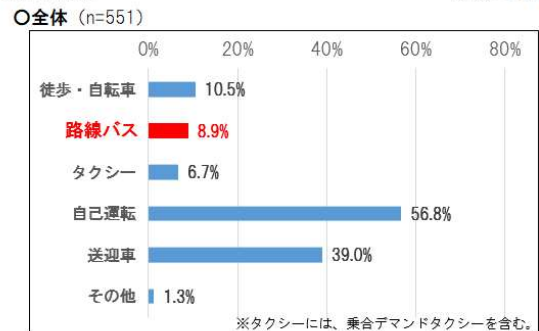
○上記のうち、自動車を保有していないもの (n=37)



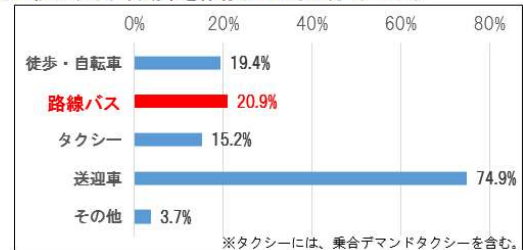
・乙部町



<移動手段> 【複数回答】



○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=191)



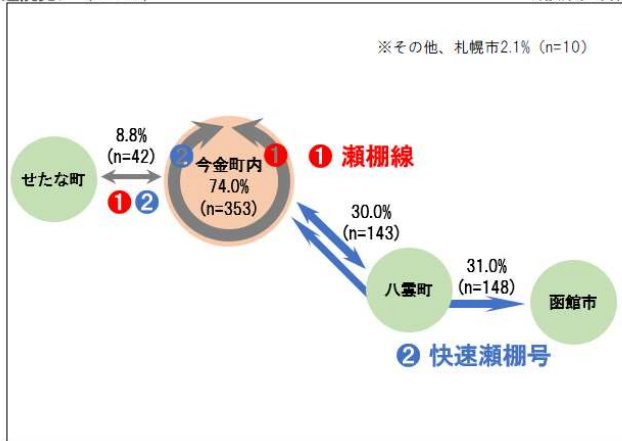
【檜山北部】

- 各町に病院が所在しているが、総合病院のある八雲町への通院も見られる。
- また、大きな総合病院が所在し、医療機関数の多い函館市などに通院する地域住民も多く、一部、札幌市に通院する地域住民も見られる。
- 移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

・今金町

<通院先> (n=477)

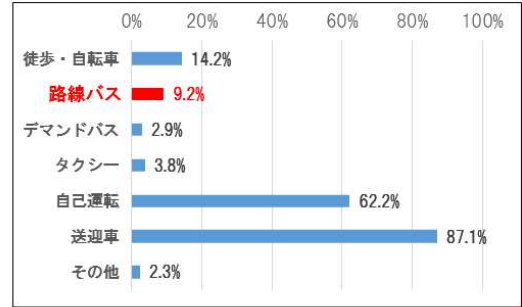
[複数回答]



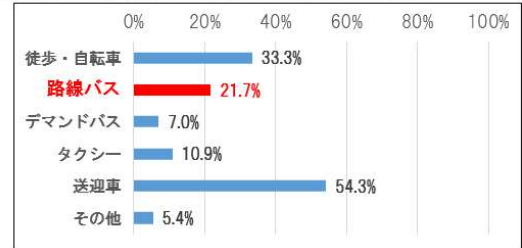
<移動手段>

[複数回答]

○全体 (n=479)



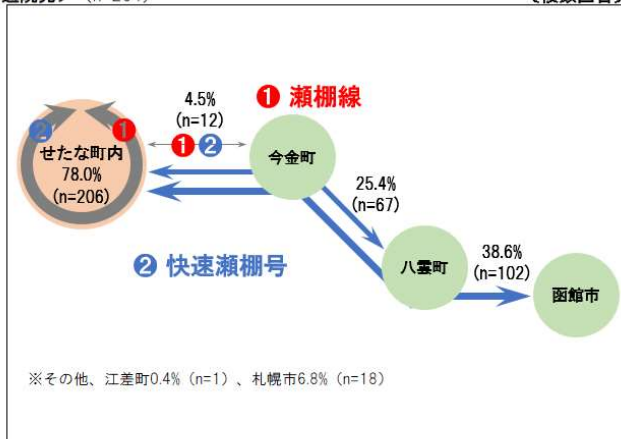
○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=129)



・せたな町

<通院先> (n=264)

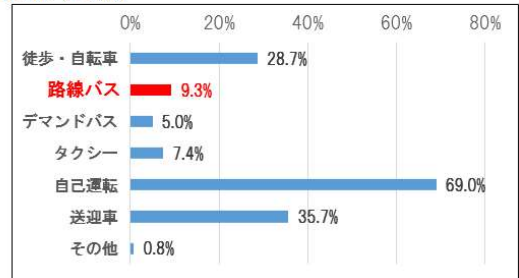
[複数回答]



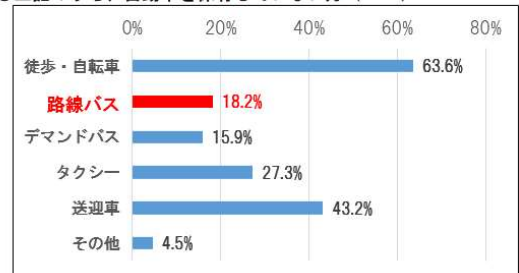
<移動手段>

[複数回答]

○全体 (n=258)



○上記のうち、自動車を保有していない方 (n=44)



【檜山全体】

○檜山北部より檜山南部の方が他市町村に通院している割合が高い。

○移動手段としては、自己運転が圧倒的多数であるが、自動車を保有していない方では、路線バスの利用割合は高くなる傾向がある。

e 公共交通への主な意見

【バス路線の維持・見直し】

- 通院にバスを利用しているため、現在のバス路線を維持して欲しい。
- 病院に勤務しているが、多くの患者がバスのダイヤにより受診行動に制約を受けており、過度に早い時刻に受診したり、診療後に数時間バスを待たないといけないという状況にあるため、ダイヤを検討して欲しい。
- 現在のバス路線は、乗降者の少ない区間を経由していることから、時間がかかっており、地域住民や観光客が利用しづらいため、最短ルートに見直しして欲しい。
- 観光する際に、若年層は自動車を運転して移動するが、高齢者は不慣れな土地で自ら運転しないため、必要最低限のバス路線を維持して欲しい。
- バス停までの距離が遠くて不便なため、自宅の近くにバス停を設置して欲しい。

【高齢者の移動手段の確保】

- 今は自動車を運転するので、公共交通を利用しないが、高齢になったら免許返納するため、公共交通が必要である。
- 高齢の親が自動車を運転し続けるのは不安なため、高齢者が免許を手放しても安心して暮らせる公共交通が必要である。

【通学生の移動手段の確保】

- 高校生が放課後に、部活動や自主学習をしていると、帰りのバスの時刻に間に合わず、送迎が必要となっているため、ダイヤを改善して欲しい。
- バスの運行本数が少なく、特に日祝日は1本しかないため、学校に行く必要がある時は厳しいので、運行本数を増やして欲しい。

【乗継・乗換環境、待合環境の見直し】

- バス同士の乗り継ぎやJR等との乗り換えにおいて、待ち時間が長いため、ダイヤを改善して欲しい。
- バスを乗り継ぐのに、待ち時間が長く、かつ、バス待合所がないことから、近くの図書館で待っているが、17時には閉まってしまい、冬は寒空の下、1時間以上待つことになるため、改善して欲しい。

【運行情報の提供】

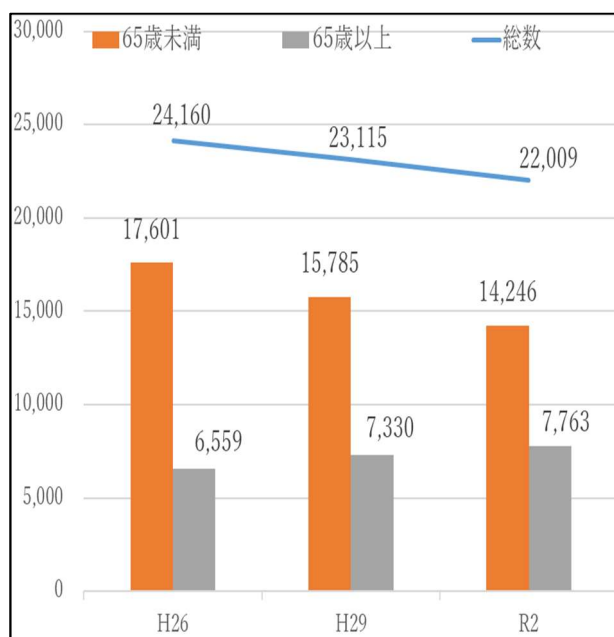
- バスの運行ルートやダイヤが分からないため、バス待合所に時刻表やバスマップを置いて欲しい。

(3) 運転免許の保有・返納の状況

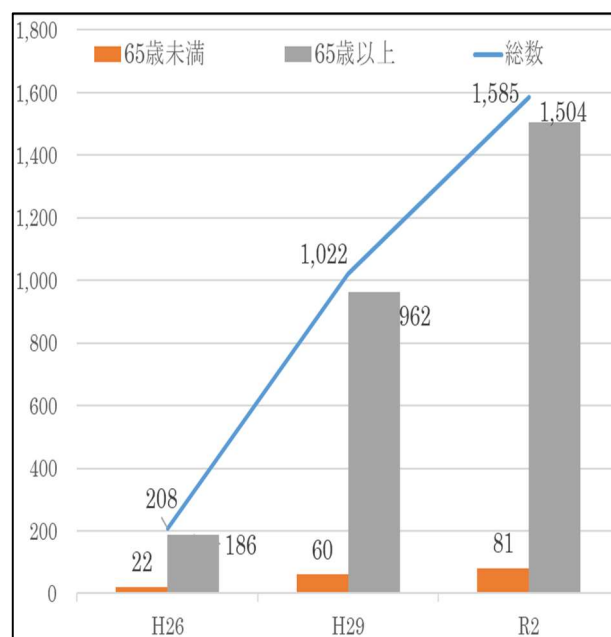
○人口減少に伴い、運転免許保有者数も減少傾向にあるが、高齢化の進行により高齢者の運転免許保有者数は増えている。

○運転免許の自主返納件数は、平成26年の208件から、令和2年の1,585件と、6年間で約7倍近く増加している。

檜山の運転免許保有数 (人)



道南地域の運転免許自主返納件数 (人)



※後志管内寿都町、黒松内町、島牧村の数値を含む

【出典】函館方面本部交通課